

国際・情報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第20号

〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuis.ac.jp URL http://www.nuis.ac.jp



「シュプリゲン」
〈飛躍〉

大学受験のため上京の折「おけさ丸」より、遠く飛ける雀を思いついた。その時、イカサマの力が付いてくれた。不安と希望の交差する瞬間に、あたかも大きな「力」をいただいた様に感じた。

創立十周年の記念すべきこの時、新潟国際情報大学の前途を有する若者たちの良き記念碑となりますことを願って、...

平成15年6月8日
東京藝術大学 美術学部長
教授 宮田 亮平

父母会寄贈のモニュメント

10周年記念事業のご報告



国際交流センターのサロンでの展示風景



国際交流センターの国際交流フロア

「国際化に生きる、情報化を活かす」新しい人材の育成を目指して平成六年四月に開学した本学も、十周年を迎えることができました。これを機に我が新潟国際情報大学は学生の学習意欲をさらに高めるとともに、本学が果たしてきた役割を強化するために次の記念事業を実施いたしました。

一、新潟市の市街地に「新潟中央キャンパス」を開校。四年次生の教育の一部と就職活動や同窓会活動の拠点として、また生涯学習や公開講座の拠点としての役割を果たします。

二、情報センター棟の増築。1階は新たに75,000冊の蔵書が可能になりました。図書館機能に加えグループ学習室、集中学習室、語学自習室、情報発信室など新設され、マルチメディア多機能スペースをより充実させました。2階は「国際交流センター」を新設し、海外の提携大学との交流促進を図ります。（詳しくは2面）

三、学内の情報環境の整備をさらに薦め、高速ネットワーク技術や高性能なコンピュータ環境を取り入れた、国際化、情報化に対応した先進的なキャンパスを目指します。これによって本校と新潟中央キャンパスとの遠隔授業やテレビ会議も可能となります。

このように学習環境の充実を図ったことにより、設立時より標榜してきた本学の特色をさらに高めることが可能となりました。

益々進む国際化、情報化の時代に、新潟県の未来を担う有為な人材の育成に大きく貢献出来るものと確信しております。

開学10周年を迎えて

学校法人 新潟平成学院理事長 小澤 辰男

本学は創立十周年を迎えました。十余年前、新潟市には高等教育機関、特に私立の四年制大学が極めて少なく、新潟市、新潟県、地元経済界が体となって、「大学を作ろう」という構想の実現に向けて動き出しました。ロシア、中国、韓国など対岸の国々と海路、空路で結ばれ、長い交流の歴史を背景に、環日本海時代をリードする国際都市として新潟が発展するためには国際社会に通用する人材育成が急務だったのです。

言語だけではなく文化や歴史を理解し、二十世紀に活躍できる人材を、この地で育てたいという願いをこめ、平成六年四月開校しました。卒業生1,750名が巣立ち、県内はもとより全国各地、海外で活躍を続けています。

大学は、人材育成と同時に地域社会に根ざし、コミュニティと共に歩み、教育を通じて社会に貢献する責務があると考えております。そのようなことから十周年記念事業の環として「新潟中央キャンパス」を新潟市街地、証谷小路の一角に開校いたしました。1Fの学生ホールと前庭の「証谷小路ゆうあい公園」には父母会から寄贈いただいたイルカの記念ミニメントがそれぞれ設置されました。新潟県出身で東京藝術大学教授、美術学部長の富田亮平先生からお送りいただいたものです。

「新潟中央キャンパス」は学業はもとより、就職活動、同窓会の集まりに加え、市民公開講座、生涯学習などの一般開放や、将来は社会人向けの大学院の開設も視野に入れてまいります。

日本の社会は混迷を深め、大学を取りまく環境は厳しく、構造的な不況、雇用不安、北朝鮮をめぐる緊張も続いています。十年を節目に新たな飛躍を目指します。インターンシップの拡充、留学制度や奨学金など学費支援制度の充実に努め、大学としての責務を果たし、地域活性化の一翼を担っている決意を新たにしております。引き続きご理解、ご協力をお願い申し上げます。

開学10周年を迎えて

新潟国際情報大学長 武藤 輝一

本学は大学設置基準の大綱化(平成3年)という新しい波の中で、平成6年の春に開学致しました。国際化、情報化のこれからの社会の中で、心温かく、相應しい能力を備え、大いに活躍できる人物を育成するのが本学創立の理念であり、目的でもありました。幸い本年3月までに、1,750名の前途有為の卒業生が社会へと巣立つて行きました。大変嬉しいことです。

そして、この度、開学10周年を迎えました。6月8日(日)の開学10周年記念式典並びに祝賀会(ホテル新潟)には新潟県内外から多数のご来賓においでいただき、本学の役員、教職員、学生代表、父母会の代表の方々、同窓会の代表など多数出席され、各方面から多数の祝辞を頂戴致しました。この日の午前中には、新しく新潟市の中心部に開設された新潟中央キャンパスのテープカットも行われ、市民の皆さんから注目され、感謝されております。6月6日には市民公開講演会を、6月7日には主として外国(米国、カナダ、中国、韓国、ロシア)の提携5大学からの演者に加えて、国際シンポジウムを開催し、実り多き成果を得ることができました。

今後、役員、教職員の総意があれば、大学院修士課程(情報システム関連)の設置や2学部への発展を考えたいと思っています。本学の益々の発展のため、私共教職員や学生諸君の努力が必要な事は勿論ですが、皆さんの一層のご支援をお願いする次第です。



式典、祝賀会

平成15年6月8日(日)、ホテル新潟2階芙蓉の間において「新潟国際情報大学創立十周年記念式典」が行われました。

開学にいたるまでの関係者の想い、当校に寄せられる期待など十年前の様子を伝える、小澤辰男理事長や武藤輝一学長の式辞、挨拶から始まり、校歌作詞者の松澤博氏とキャラクター作成者の吉原力氏の表彰、十周年記念品の贈呈式が行われ、父母会からはシュプリンゲン(飛躍)と題されたイルカの記念ミニメント、同窓会(みずき会)からは絵画を贈っていただきました。

続いて父母会長、同窓会長、ミニメント作成者の東京藝術大学美術学部長、宮田亮平氏と校歌作曲者の上越教育大学後藤丹氏に感謝状が贈呈されました。

十周年記念事業の環として、新潟中央キャンパス開校、情報センター棟の増築、「国際交流センター」の新設とともに「校歌、キャラクターの発表」「記念品の贈呈」が実施されました。

来賓祝辞と各方面からの祝電では、新潟国際情報大学および学生への期待と新潟の発展にさらに貢献して欲しいとの願いが込められた新潟県知事(代理 川上忠義副知事、篠田昭新潟市長、日本私立大学協会会長(代理 原野幸康常務理事)、上原明新潟商工会議所会頭からのお言葉をいただき、さらなる飛躍を誓い、式典は閉会となりました。

3階飛翔の間に会場を移し「新潟国際情報大学創立十周年記念祝賀会」が続いて行われ、約600人の参列者を前に小澤辰男理事長の挨拶の後、長谷川彰新潟大学長、宮田亮平東京藝術大学美術学部長より祝辞をいただきました。

海外提携大学からの招待客も加わった鏡開きは、総勢15名による盛大なものとなり、華やいた空気の中、長谷川義明前新潟市長の乾杯で祝宴が始まりました。

海外招待者の紹介や校歌とキャラクター披露の時間を交えながら、閉会の時間まで、終始和やかな雰囲気での祝宴となりました。

開校式

本学の10周年記念式典に先がけて、同日午前9時より「新潟中央キャンパス開校式」が新潟市上大川前通の現地で挙行されました。

篠田昭新潟市長、堀川武新潟市教育長、亀山亮二父母会長、高橋毅同窓会長をはじめ、多くのご来賓の参列を頂き、小澤理事長式辞、武藤学長挨拶の後、新校舎のテープカットが行われ、最後に父母会長の御礼のご挨拶で約40分間の式典がつがなりました。

またイルカを型どった記念ミニメント「シュプリンゲン(飛躍)」の製作者である、東京藝術大学美術学部長の宮田亮平先生のご出席をいただき除幕式も併せて執り行われました。記者会見では各メディアの熱心な取材対応に、本学に対する大きな期待が感じられました。十周年を節目として、新しい歴史を築いてゆく幕開けにふさわしい式となりました。

国際交流センターの開設

国際交流センターは、学生・教員・地域による国際交流をより一層充実させていくための拠点として、2003年9月に開館致します。派遣留学・夏期セミナーを中心とした海外留学、学生・教員グループによる国際交流、海外の研究者や提携大学学部との交流などを、促進・支援していくことがセンターの事業の中心です。センター内の主な施設としては、派遣留学等の事前研修、国際交流関連の授業科目や公開講座、講演会や国際会議などが行われるセミナールーム、提携大学・学部やその他の海外の大学に関する資料などが展示・配架される留学交流スペース、国際交流関連の雑誌、書籍が配架される書籍閲覧スペース、国際交流関連の団体や学生有志がミーティングなどを行うことができるミーティングルームなどがあります。国際交流を目的とする大学内の施設としては、全国的にみても類をみない規模・機能を持つ国際交流センターに、是非一度足を運んでみてください。

学術シンポジウム

学問の発展は、
社会のために、市民と共に

情報文化学科教授 區 建英

本学は去る六月七日、朱鷺メッセ国際会議場において、創立十周年記念学術シンポジウムを開催し、県内外から約三百人の参加を頂いた。共通テーマは「国際化・情報化と大学の社会的役割」である。二十世紀のさまざまな課題に対応するため、アジア・太平洋の人々と共に考え、話し合うことを企図し、それを市民に一般公開することで、大学と社会との結びつき、市民の学術参加を旨としたものである。シンポジウムでは、「グローバルな情報空間が新たな不平等や差別ではなく、相互扶助的な共生社会を生みだすための条件」を提起した武者小路公秀氏による基調講演の後、二つの特別講演と二つの分科会が行われた。第一分科会のテーマは、「新世紀アジア太平洋へ共生の条件」である。アジア太平洋、とくに東アジアの問題に焦点を当て、グローバル化時代の中長期的な平和構築の可能性について多角的な議論を展開した。中国（北京師範大学）・ロシア（国立極東大学）・韓国（慶熙大学）の代表はそれぞれ、東アジアの歴史、現在の国際問題、未来の地域協力について話し合い、文化的な「相互理解」の努力が今後さらに必要であるという認識を共有した。

第二分科会は、「電子自治体の展望と大学の役割」をテーマとし、地域づくりとITについての問題提起、海外の実情と電子社会の理念の再整理を行った上で、大学の地域貢献として、大学が主体となつて設立・運営を目指す地域総合ITセンターについて、官産民それぞれの角度から討論を展開した。そして、学生による地域貢献モデルの開発、ITによる地場産業のサポートなどが、地域総合ITセンターが担う主な役割であると結論づけた。

アグネス・チャン講演会

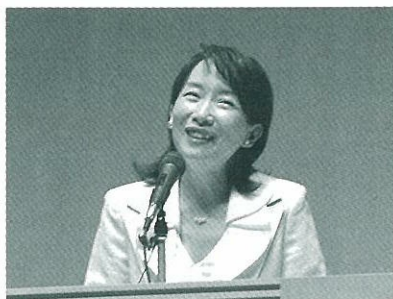
情報文化学科教授 原口 武彦

常に短し擧に長しというか、今回の講師の選定は予想以上に難航した。本学の10周年記念事業の一環として行われる市民向けのこの催しにふさわしい講師はだれか。教職員の間からは、もつと辛口の、あるいはもつとアカデミックな人という声もあったが、結局、アグネス・チャン氏に決まった。そして結果的には、成功だったといえると思う。

歌手としてはなく、講演者としての彼女の集客力についても不安があったが、六百名をこえる入場希望が寄せられ、当日、会場も用意した550の席はちょうど満杯になった。客層としては、やはりアグネス・チャンの「ひなげしの花」で青春を共有したと思われる年代の婦人が目立つた。

講演直前に食べたお弁当の新潟米のおいしさに感激したというリップ・サービスからはじまった講演はどんどん聴衆をひきこんでいった。途中でもちろん伴奏なしではあるが彼女は歌も歌った。ジョン・レノンの歌、自分が作曲したという彼女の母（中国大陸出身）の故郷を思う歌。そして飢餓に苦しむアフリカの子供たちの前で歌ったという童謡。そのとき喜んでねまわるアフリカの子供たちの姿までまねてみせた。平和の大切さを情感として伝える一人のけなげな少女を彼女は見事に演じていた。

聴衆もそれなりに満足してくれたと思う。受付の片隅にボツンとおかれていただけのユニセフの募金箱には約七万円が投げられていたという。



新潟国際情報大学校歌

作詞 松澤 博丹
作曲 後藤 丹

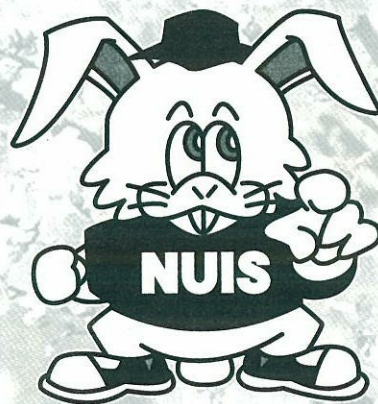
mf あほけの のの ははら とよめ きびぎ かの なはや
けをう ぼすえ のの らはり きうす りやべ さみま
さきゆ けをう ぼすえ のの らはり きうす りやべ さみま
さきゆ けをう ぼすえ のの らはり きうす りやべ さみま

mp さきゆ けをう ぼすえ のの らはり きうす りやべ さみま
さきゆ けをう ぼすえ のの らはり きうす りやべ さみま
さきゆ けをう ぼすえ のの らはり きうす りやべ さみま
さきゆ けをう ぼすえ のの らはり きうす りやべ さみま

cresc. ててて ととと あうか ゆたた もおる ううう ちたす
ををを そ らが ある か ぜ が

mf あ る ひ か り が - あ る

新潟国際情報大学キャラクター



▲在学中に野うさぎがキャンパス内に現れ、一緒にたわむれた思い出があります。その記憶からうさぎをマスコットにしました。ポーズですが、左手を前にかざし指さしています。その先には「nui」の未来が、そして在学生、卒業生、教職員の方々の夢があるのです。（作者 吉原 力）

校歌・キャラクター決定！

本学10周年記念事業の一環として、校歌・キャラクターの作製がおこなわれました。校歌の作詞、キャラクターデザインについては公募を行い、多数ご応募いただいた中から、校歌歌詞は新潟市小針在住の松澤博さんの作品、キャラクターデザインは本学第3期卒業生の吉原力さんの作品に決定いたしました。ご応募いただいた皆様、誠にありがとうございました。尚、校歌の曲については、上越教育大学の後藤丹先生にお作りいただきました。

空がある
風がある
光がある

作詞 松澤 博丹
作曲 後藤 丹

「あけぼの空はときめき
さわやかな佐潟の目覚め
あこがれを空に描いて
友と歩もう夢創る道を
空がある
風がある
光がある

「穂をゆする風はようごび
みずき野は黄金にうねる
豊かさを風に香らせ
友と歌おう夢創る歌を
空がある
風がある
光がある

三、夕映えの光やすらぎ
窓辺に涙を望み
ほほえみを光に染めて
友と語ろう夢創る明日を
空がある
風がある
光がある

ゼミ紹介

河原ゼミ(卒論ゼミナール)

情報システム学科講師 河原 和好

河原ゼミでは、画像処理に関連した分野の研究を行います。人間はさまざまな情報を、主として目を通して得ています。コンピュータでさまざまな処理をする際も同様に、画像を扱うことは重要になります。卒業研究のテーマは、画像を処理するものと、画像を作成するもの、その他に分かれます。具体的なテーマは、「画像への情報埋め込み」「ロボット」「顔の認識」「3D大学案内図」「CGによるカタログ作成」「ゲームプログラミング」「音の解析」「COCCOについて」など、多分野に分かれていて、学生が各自希望するものを選んでいきます。

研究内容が他分野にわたっているせいか(教員の趣味という説も)、研究室には機材がたくさん「ゴロゴロ」しています。パソコンは10台以上、周辺機器も多数、ソフトもいろいろあります。プログラミング・CG作成関係のソフトがある程度そろ

私のゼミ観

情報文化学科助教 臼井 陽二郎

ゼミとは、日本の大学独自のものである。そこには、技術を体得する実習ではなく、練習問題に取り組み演習でもなく、教養を広げるゼミナールではない、そのような部分が確かに存在する。その全てを表層的に取り込むとすると、尚それらと異なる次元にあるものがある。志向される。ゼミナールというカタカナ化された独語には、この深層的なものへの響きがある。この志向は、ゼミをサークル化する口実にもなる。ゼミとは酒を飲み交わす仲間とともに旅に出る仲間との出会いの場であり交流の場である。これらはゼミという場の基底に想いを寄せるきっかけであっても、決してゼミの実体そのものではないはずだ。ゼミに参加する立場にあった学生時代、このようなことを漠然と夢想していたが、ゼミを担当する立場になって以来、結局は実習・演習・ゼミナールという表層的な部分を上滑りしてきた感がある。

について、雑誌も多々あります。他にも、ロボットフットパソコンで動かすもの、自分で動くロボット、ベクトルロボットなど、映像関係(スキャナ、デジタルビデオ、デジタルビデオカメラ)、音響関係(キーボード、ギターも?)まであります。

ゼミでは、交流の一環として今年はボウリング大会をおこないました。また、ゼミ合宿も毎年行っていて、研究発表を行っています。大学祭においても研究成果を発表し、客観的な評価を色んな方に見てもらっています。

コンピュータに興味のある人はもちろん、ロボットに触ってみたいゲームを作ってみたい、絵を描いてみたい、といったことに興味のある人は、気軽に声をかけてください。



ゼミの運営方法は一年から三年まで同じである。まず共通テーマを学生全員で決めてもらう。範囲は社会科学系という限定だけ、筆者の専門への誘導はまず失敗する。次に学生それぞれが共通テーマを深めるための個別テーマを立て、その個人的関心ならびに共通テーマとの関係について、それぞれ五百字程度で説明する。その上で十件程度の文献リストをキーワードつきで作成し、個別テーマを論じるにあたって重要な部分をそれぞれ二〇ページ以上抜き出し、その部分を五百字程度で要約する。こうした準備の後、三章立て四千字の小論文を仕上げる。以上が半期中に課される仕事である。結局訓練を施しているだけで、ゼミの深層的な何ものかに触れている実感はない。ただ、厳しい仕事の合間の、たわいもない学生との会話の間に、学問の言説をともになす充実感を仄かに感じ取れる気がしないわけではない。



世界がキャンパス！



2003年度派遣留学・夏期ゼミナールの実施日程

今年度も2年生を中心に夏以降、海外に留学、研修に多くの学生が旅立ちます。ただ、残念ながら、中国コースは来年度への延期が決定されました。

アルバータ大学(カナダ、エドモントン市)

8月3日(日) 出国
8月5日(火) 授業開始
8月14日(木)・19日(火)・21日(木)・28日(木)・9月4日(木) 企業訪問
9月4日(木) 授業終了
9月5日(金) 試験日
9月7日(日) 帰国

ノースウェストミズーリ州立大学

(アメリカ、メリーヴィル市)

8月2日(土) マイク・スタイナー助教と教育助手(TA)2名来日
8月4日(月)～8日(金) スタイナー助教による本学で参加学生への集中講義(2-4限) スタイナー助教授離日
8月10日(日) 出国
8月16日(土) 出国
8月18日(月) 授業開始
9月18日(木) 授業終了(試験)
9月20日(土) 帰国

慶熙大学(韓国、ソウル市)

8月29日(金) 出国
9月1日(月) 入校式
9月2日(火) 授業開始
9月10日(水)～12日(金) お盆(秋夕)休み
10月10日(金)・11日(土) 現地学習(雪岳山)

極東国立総合大学(ロシア、ウラジオストーク市)

10月15日(水)～16日(木) 中間テスト
12月15日(月)～16日(火) 期末テスト
12月16日(火) 現地学習(乱打公演観覧)
12月19日(金) 修了式
12月28日(日) 帰国

2004年1月5日(月)～1月9日(金) 年末休業
2003年12月29日(月)～2004年1月4日(日) クリスマス祝いと新年行事の準備
2004年1月6日(火)～1月7日(水) ロシア正教のクリスマス祝い
2004年1月11日(日) 帰国

●今年度の中国コースは中止しました。

北京師範大学への派遣留学は、SARSの問題を考慮して今年度の実施は見送り、来年度改めて実施することになりました。中国の取り組みにより事態は改善され、WHOの北京市への渡航延期勧告も6月24日に解除されましたが、冬の再発の可能性が否定できず、再発の場合は途中帰国の可能性があることを考慮しました。



学 事 日 程

8月 1日(金)	夏期休業開始
9月22日(月)	後期授業開始
10月18日(土)、19日(日)	紅翔祭(学園祭)
12月23日(火)	冬期休業開始
1月 8日(木)	授業開始
20日(火)	後期講義終了
21日(水)～27日(火)	後期定期試験
3月15日(月)	春期休業開始
19日(金)	卒業式

日本計算機統計学会、開催される

情報システム学科助教 塚田 真一

5月22、23日の2日間に行われ、日本計算機統計学会が主催メッセにて行われました。私が大会実行委員長として、赤木教授が大会実行委員として大会運営にあたりました。また本学から事務員4名、学生11名にもお手伝い頂き大会を無事終えることができました。今大会は例年の大会よりも申込件数が多く34件の研究報告、6件のソフトウェアデモが行われました(全参加者は125名)。また、特別講演として新潟大学医学部教授・安保徹先生による免疫学の講演、N-Tデータ株・坂野鋭さんによるパターン認識の講演も行われました。私は「因子負荷量に関する検定統計量と近似分布について」という題目で研究発表も行いました。



就職課よりお知らせ

3年次生、4年次生を対象に夏期休業中、下記のスケジュールを予定しています。積極的に参加して下さい。

3年次生対象

就職何でも相談

8月18日(月)～8月28日(木)

9月 8日(月)～9月12日(金)

※土日祝日は除く

8月 2日(土)……就職模擬試験(一般常識・職務適性)

8月29日(金)……就職模擬試験フォローガイダンス

9月 7日(日)……3年次生父母就職説明会

4年次生対象

8月12日(火)……就職未内定者向け就職指導ガイダンス

学務課より夏期休業期間のお願い

◇海外旅行日程届◇

ゼミ旅行(合宿)、個人的な旅行を問わず、海外へ渡航する場合は「海外旅行日程届」を事前に学務課まで提出してください。他に、学生同士で登山をする場合も事前に登山計画を学務課まで提出してください。

出入り口の解錠施錠時刻

平成15年8月1日～平成15年9月20日

	教室棟・情報センター棟	
	解 錠	施 錠
月～金	8 : 45	19 : 00
土	閉 鎖	
日・祝日 ※	閉 鎖	

※ 8月13日～16日は、「日・祝日」扱いになります。

教員の研究活動

2003年3月1日から6月30日までの出版と学会報告のうち、ご本人から提示のあったものです。ただし、一部実際には3月に出版されたものも含みます。

著書

荻部恒徳教授

鈴木佳秀編「神話・伝説の成立とその展開の比較研究」共著、高志書院、2003年3月

越智敏夫助教授・佐々木寛助教授

高島通敏編「現代市民政治論」共著、世織書房、2003年2月

臼井陽一郎助教授

田村正勝編著「甦る「ミニニイ」：哲学と社会科学の対話」共著、文眞堂、2003年4月

長坂祐講師

「海外における日本人、日本のなかの外国人」共著、昭和堂、2003年2月
「国際関係論のフロンティア」共著、ミネルヴァ書房、2003年4月

平田透助教授

永田晃也編「価値創造システムとしての企業」共著、学文社、2003年3月

学会報告

荻部恒徳教授

「Geometriaは怨霊だつたーDoomの怪物への新たな視点」
第75回日本英文学会全国大会、成蹊大学、5月25日(日)

小宮山智志講師

「地域における不公平感の地域間格差の解明」階層線形モデルの応用例」
日本選挙学会、金沢大学(金沢市観光会館・石川県立社会教育センター)
5月18日(日)

竹並輝之教授

「JABE試行審査報告」情報処理学会第65回全国大会、東京工科大学、
3月27日(木)

塚田真一助教授

「因子負荷量に関する検定統計量と近似分布について」
日本計算機統計学会、新潟市・朱鷺メッセ、5月22日(木)

原口武彦教授

「コートジボワール紛争」日本アフリカ学会第40回学術大会、島根大学、
6月1日(日)

大学を体験しよう!!

〔本校にて開催〕

第2回オープンキャンパス

■平成15年10月4日(土) 10:00～15:30

■CONTENTS

- 学部・学科紹介
- 入試情報説明
- 入試問題の傾向と対策
- 模擬講義
- コンピュータ実習
- カリキュラム、履修説明
- 入試個別相談
- 海外留学相談
- 就職相談
- 在学生による何でも相談

※昼食は学生食堂にて無料提供します。ぜひご試食ください!

<第1回目は7月26日(土)に終了しました>

NUIS-LIVE

大学ではどんなことを学ぶの?
NUISの特色ある講義を体験しよう!

～国際化・情報化を体感～

■平成15年8月21日(木) 10:00～15:10

情報システム学科、情報文化学科、両学科の講義を開講します。

各イベントの申し込み方法

高校の進路指導の先生もしくは、下記にお申込み下さい。

■お問い合わせ先

新潟国際情報大学広報係

〒950-2292 新潟市みずき野3-1-1

TEL 025-239-3111 FAX 025-239-3690

E-Mail soudan@nuis.ac.jp

市民のための 公開講座

…中級者向パソコン教室…

- 日 時 10/18日、25日、11/1日、8日
- 時 間 13:00～16:00
- 会 場 本校(新潟市みずき野3-1-1)
- 定 員 80人(応募者多数の場合は抽選となります)
- 申込み方法 往復はがきに 住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、お申込み下さい。
〒950-2292 新潟市みずき野3-1-1
「新潟国際情報大学 中級者向パソコン教室」
総務課宛
9/29(月)～10/6(月)必着。

2003年度公開講座

「映画の中の市民社会」を終えて

地域交流委員(情報文化学科助教) 佐々木寛

本講座は五年目となったが、例年通り、新聞やテレビなど地元メディアにも大きくとりあげられ、新潟の地域社会に広く認知されるようになった。今年も例年どおり百名前後の受講生を迎え、「平和と希望の再構築」という共通テーマで映画を鑑賞し、議論を深めた。一作品のみだが、本学の新潟中央キャンパスで初上映することができ、また、ゲスト講師として新進気鋭の映画監督、森達也さんをお招きできたことも大きな収穫だった。選ばれた四作品の映画はどれも芸術性が高いもので、一般上映では採算がたたないものばかりだったが、市民映画館「万代シネマ」の協力で質の高い講座を実現することができた。この場をかりて、参加してくれた受講生のみならず、足繁く映画館に足を運んでくださった本学教員のみなさん、そしてなによりも、本講座を陰で支えてくださった本学事務員やシネマスタッフのみなさんにあつく御礼を申し上げたい。

平成16年度 入学者選抜試験日程

◎詳細は募集要項でご確認下さい。

入 試 区 分		募 集 人 員		出 願 期 間	試 験 日	試 験 実 施 教 科 ・ 科 目
推 薦 入 試	高校長推薦 指定校制	情報文化学科 10 情報システム学科 20	30	15.11.1(土)～ 11.10(月)	15.11.16(日)	本学が指定校と定めた高校長あて推薦依頼を行います。
	高校長推薦 公 募 制	情報文化学科 30 情報システム学科 35	65			面接・小論文
	高校長推薦 スポーツ	情報文化学科 情報システム学科	若干名			面接・小論文・基礎体力テスト 種目は募集要項で確認ください。
	社会人特別選抜	情報文化学科 情報システム学科	若干名			面接・小論文
一 般 入 試	前 期	情報文化学科 35	95	16.1.6(火)～1.22(木)	16.2.2(月)	・国語：国語Ⅰ・国語Ⅱ (いずれも古文・漢文を除く) ・数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) ・外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験会場で選択
		情報システム学科 60				
	大学入試センター試験	情報文化学科 15	35	16.2.5(木)～2.13(金)		学科試験を課さず、16年度のセンター試験の成績で判定。全教科の中から2教科2科目選択 配点：各教科100点。3科目以上受験した場合は高得点の2教科2科目を合否判定に使用
		情報システム学科 20				
	後 期	情報文化学科 10	25	16.2.20(金)～3.2(火)	16.3.8(月)	・国語：国語Ⅰ・国語Ⅱ (いずれも古文・漢文を除く) ・数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) ・外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験会場で選択
		情報システム学科 15				

●入試に関する問い合わせ先

新潟国際情報大学学務課教務係 〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 電話(025)239-3111 FAX(025)239-3690

紅翔祭開催!!

テーマ: It's now or never!!

10月18日(土)・19日(日)

イベント(予定)

- ゼミ体験会
- CEP (Communicative English Program) ビデオ・アクティビティー
- カラオケ大会

※一般の方も
参加できます。

出展(予定)

- 模擬店
- ゼミ紹介
- サークル紹介



紅翔祭実行委員長 桑田 和征



今年度も10月18日、19日に紅翔祭を開催します。今年度の学友会執行部・紅翔祭実行委員のメンバーは大半が紅翔祭の未経験者ばかりで、何をやるにも分からない事ばかりです。そんな新生学友会執行部ですが、昨年を例としない新たなイベントの取り入れや、行事など、様々な事に挑戦しています。出展者の募集や、企業まわりなど、大変な事は多いですが、紅翔祭を成功し、充実させたものにする為に、日々頑張っています。

今年、新潟中央キャンパスの建立、本学においては、国際交流センターの新設や、図書館の増設など、目覚ましい進展を遂げています。そこで、今年に創立10周年という節目に着目し、「It's now or never!!」というテーマにしました。直訳すると「今しかやる時がない!!」という意味です。学友会についても、一度しか訪れない10年という記念すべき節目の年に、様々な事に挑戦し、今まで以上に紅翔祭を盛り上げるという理念のもと、決めました。人が何かを成し遂げようとする時、良い物を生み出す為には、数々の試行錯誤を繰り返す必要があります。「今はこんな悪い部分があるから、ここを変えてみてはどうだろ」と「変えてみたけれど、思ったほど効果はなさそうだから別な方法はないだろうか」といった試行錯誤がより良い物を築き上げていくのだと思います。これから、紅翔祭までの期間を精一杯活用し、時間をかけて作り上げていこうと思います。多くの学生、地域の皆様が紅翔祭に参加してくれることを願っています。

文化講演会



日時/10月19日(日) 開場14:30 開演15:00
講師/永 六輔氏 (テーマ未定)
場所/本校体育館(新潟市みずき野3-1-1)
定員/500名 先着無料。定員になり次第メ切り
申し込み方法/整理券が必要となりますので、はがきに住所・氏名・年齢・職業・電話番号・希望枚数を明記の上お申込みください。お一人様、5名様分までお申込みできます。9月8日(月)より受付です。
申し込み先/TEL002-2022 新潟市みずき野3-1-1「新潟国際情報大学 紅翔祭実行委員会 文化講演会」宛
※当選発表は整理券の発送をもってかえさせていただきます。
問い合わせ/新潟国際情報大学学務課 TEL002-2009-3111

スポーツ大会

スポーツ大会実行委員長 山澤 真

今年度も5月21日(水)に、学友会主催のスポーツ大会が行われました。種目は昨年と同じく、大縄・サッカー・ソフトバレーに当日エントリーによる、フリースロー・ストラックアウト・フィットネス研究会主催によるアームレスリング大会が開かれました。サッカー・ソフトバレーにおいては、学生の優勝チームと本学の教員による教員チームとの試合を行いました。サッカーは、20分間の試合でも決着が着かず、PK戦の末に、教員チームが収めるという熱戦が繰り広げられました。ソフトバレーの方は学生チームが勝利しました。準備段階から、「昨年と同じでは駄目だ」とか「昨年以上に盛り上げよう」と思っていました。そして今年はいくらでも参加できるようなストラックアウトを追加するとともに、学生と教員チームの対戦を企画しました。大縄・サッカー・ソフトバレーの全てが昨年より参加チームが多く、また好天にも恵まれ、例年以上に盛り上がりを見せました。



最後になりましたが、スポーツ大会を開催するに当たって、ご協力いただいた教職員の方々、この場を借りてお礼を申し上げます。

卒業生の便り

留学で掴んだ「縁」

川上 洋子
情報文化学科 平成10年度卒

卒業してから早4年が過ぎようとしている。あつという間ともいえるがそれ以上に年月が過ぎたようにも感じられる。それはこの韓国留学を決めるまで私なりに苦労を味わったからである。最初から順調な道なんてない。苦しい思いこそ噛みしめる思いも感慨深く、達成感も大きい。諦めたら終り、最後の瞬間まで諦めなければ夢は必ず叶う、必ず道は開ける。

私は現在、慶熙大学教育大学院で「外国語としての韓国語教育」を専攻している。外国人向けに教える韓国語教育の研究である。授業は夜間であるためほとんどの学生が昼間は社会人、夜は学生の二足の草鞋をはいている。授業以外に大学院では勉強会(スタディーと呼んでいる)で不足した知識の補いや先輩から後輩までの縦のつながり、横のつながりを充たしてくれるのである。留学生どうし互いの労をねぎらう時間も、これもまた留学生生活の醍醐味になりつつある。

「留学生生活を楽しむ充実としたものにできるかは、様々な人との関わり縁で決まるようなものである。」とある教授がこうおっしゃっていた。そう思うと、現地の友なくしては無事今学期を終えることもできなかつたかも知れない。幸運にも大学院では「理解のある教授陣をはじめ、親切な先輩方、同期入学した友との出会いに本当に恵まれている。そしてその「縁」も手伝い、韓国政府奨学金生の語学研修機関であるこの慶熙大で、様々な情報アドバイスを得て試験を受け、この9月よりめでたく韓国政府より奨学金生として合格できた。当初、私費で来た私にとっては願ってもない朗報をつかむことができ、これからの留学生生活をより充実としたものにできる確信が掴めた。

大学を卒業して約2年半は会社員生活をしてきたが、社会で得た経験も挫折も全て今、私の糧になっていることは間違いない。これまで掴んできた全ての「縁」がこうして今、花開いたのだから。



▲友人と近くの駅のホームで
(左が川上さん)



▲留学生仲間とベトナム料理を囲む会

アフリカの先生達を迎える！

情報文化学科講師 長坂 格

国際協力事業団の「青年招へい事業」で来日した、アフリカ19カ国24名の女性教員が、7月18日に本学を訪れました。二行はまず国際交流センターにおいて、本学のカリキュラムについての説明を受けました。全員が教員であったため、カリキュラム等に大層関心が強く、活発な質疑応答が行われました。その後、「情報文化」の講義に参加し、原口教員の通訳で、自己紹介をしてから学生からの質問を受けました。講義終了後は、学生諸君と共に学生食堂で昼食をとりました。アフリカについて質問したり、一緒に写真を撮ることもあったりと積極的に交流する学生諸君の姿が目につきました。昼食後は国際交流センターにて理事長とケキを食べながら懇談しました。講義中、そして彼女達が帰る際には、情報文化学科3年の奥村潤一郎君がアフリカの太鼓「タムタム」を演奏し、彼女達が踊る風景も見られました。今後もうこうした学生諸君がより一層国際交流に参加できる機会を数多く作っていきたいと思います。



学食での交流風景



タムタム演奏(左、左上)

情報文化学科3年 奥村潤一郎
今までアフリカの方々の前でタムタムを叩く機会がなくとても緊張しました。音が出るという程度の自分のリズムに皆が踊りだしたときには感動しました。音楽には国境がないとつくづく感じました。

新広報委員長挨拶

大竹 康夫

本号では開学10周年記念事業の報告を特集しています。私はちょうどこの記念すべき年に本年度の広報委員長を引き継ぎました。私の使命は開学以来、地域の大学として社会に受け入れられてきた結果として築かれた基盤の上に、次の10年に向けての広報戦略の第歩を確立することであると認識しています。

しかし次の10年の大学を取り巻く教育と経営環境にはかなり厳しい現実があります。先ず教育面では、①初等中等教育における改定学習指導要領による入学生の学力に対応すること、②産業構造変化と競争力強化のための人材要件と大学教育とのミスマッチを解消すること、③社会人の専門的な継続教育ニーズを取り込むことなど、教育カリキュラムの構成と内容に影響する課題があります。

他方、経営面では、①18歳人口の絶対的減少傾向の継続、②国立大学の独立行政法人化による競争環境の激化、③大学認証評価の制度化による質的充実の要請など、大学経営に大きなインパクトを与える要因があります。

これらの教育と経営上の諸課題に現実的に対応するには従来からの伝統的な大学のシステムからの発想だけでは困難であり、教職員の意識改革を伴う組織的な教育システムの変革が必要であるといわれています。

「国際化に生きる、情報化を活かす」という開学の基本理念を実現する教育システムは時代の要請にしたがって変革を求められています。本誌では、今後は、従来からの情報提供に加えて、前に述べたような大学が直面する課題に対して本学がどのように対応しようとしているのか、というテーマについても、特集記事などで取り上げて行きたいと思っています。

湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて